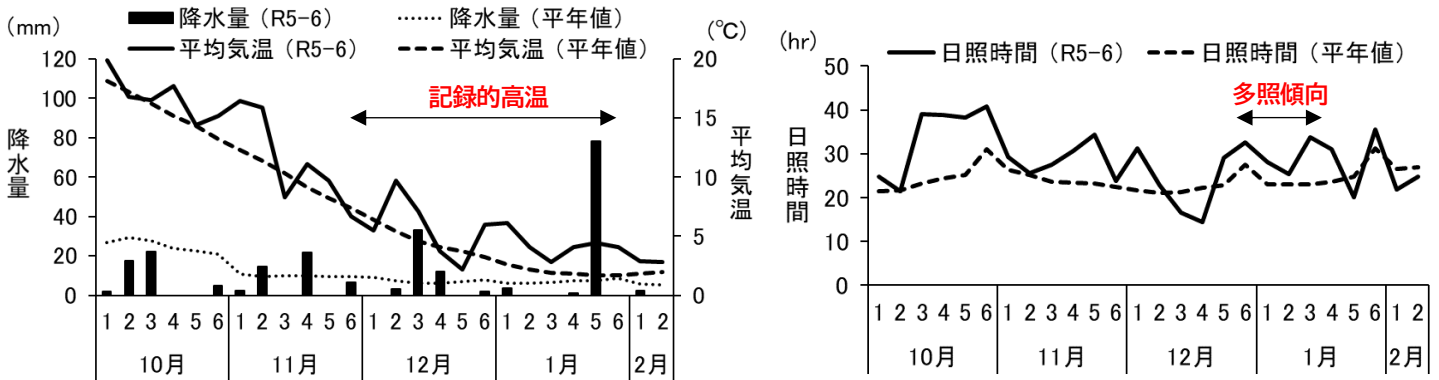




今後の栽培管理のポイント

- (1)排水状況の確認 (2)麦踏み (3)追肥 (4)雑草防除

1 気象経過 (10月第1半旬～2月第2半旬, 仙台アメダス)



- ・気 温：11 月以降平年より高く推移しており、特に1月は記録的な高温となりました。
- ・降水量：時折まとまった降雨があり、降水量は平年並から多く推移しています。
- ・日照時間：12 月下旬から1月下旬にかけて多い傾向にありました。

2 大麦生育調査結果 (2月9日現在)

・仙台市 (シュンライ、ホワイトファイバー)

天候に恵まれたことから、ホワイトファイバーは草丈が大きくなっています。また、幼穂の伸長は平年より進んでおり、シュンライの幼穂長は 1.4mm、ホワイトファイバーの幼穂長は 1.8mm でともに幼穂形成期に入っています。

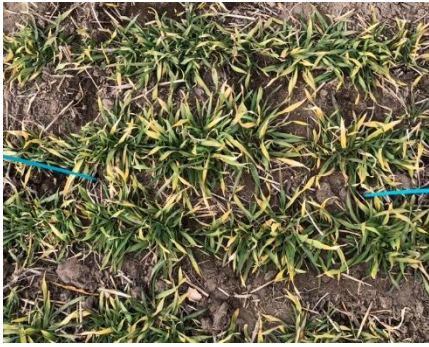
・大和町 (ホワイトファイバー)

仙台市と同様に播種後の天候に恵まれ、茎数・草丈ともに前年より多くなっています。幼穂長は 1.2mm で、幼穂形成期に入りました。

表 生育調査ほにおける生育調査結果 (令和6年2月9日調査)

品種	ほ場	条間(cm)	播種日	草丈(cm)			茎数(本/m ²)			幼穂長(mm)		
				本年	平年比(%)	前年比(%)	本年	平年比(%)	前年比(%)	本年	平年差	前年差
シュンライ	仙台市 宮城野区	24.4	10月5日	10.1	96.8	94.4	566	56.6	41.8	1.4	+0.2	-0.3
ホワイト ファイバー	仙台市 宮城野区	21.6	10月5日	11.8	120.4	126.9	828	98.7	78.9	1.8	+0.5	-0.2
	大和町 落合	34.2	10月23日	10.3	—	103.0	1,616	—	285.6	1.2	—	-0.3

※平年値は3か年平均 大和町は調査2年目のため平年値なし



仙台市シュンライ



仙台市ホワイトファイバー



大和町ホワイトファイバー

3 今後の栽培管理

(1)排水状況の確認

融雪や降雨によるほ場の停滞水を速やかに排出することが重要です。「暗きよの再点検（閉じていないか）」「明きよの手直し」を行いましょう。

○湿害が及ぼす影響

[出芽後期～分けつ期]→浅根、分けつの減少、葉の黄化

[節間伸長期～出穂期]→弱小分けつの枯死、穂数の減少、穂の縮小化



○排水環境の良い例
額縁明きよとほ場内明きよが排水路につながっている



○手直しが必要な例
ほ場内明きよが排水路とつながっていないため滞水。

(2)麦踏み

麦踏みの時期は茎立期前までとなります。今年は播種期以降の日平均気温が高く、今後も引き続き高温が予想されることから、大麦では間もなく茎立期を迎えると考えられます。麦踏みの実施にあたっては、幼穂の長さを確認し、作業を実施できるか慎重に判断しましょう。

- ・効果：生育・穂揃いの均一化など
- ・**実施時期：茎立期前までに実施**(幼穂長 2mm 頃から茎立ち)
- ・回数：年明け後 1～2 回（播種後から全 2～3 回）が基本です。

〔 ⚠️ 下記の状態では逆効果なので、麦踏みは実施しないようにしましょう。 〕

- 鳥類の食害がある
- ほ場が湿っている

- ・「ホワイトファイバー」は「シュンライ」と比べてやや倒伏しやすいため、茎立ち前であれば必ず麦踏みを実施しましょう。

(3)追肥

追肥の目的は、気象や土壌条件によって変動する生育を目標収量及び品質に近づけることです。一般に大麦はたんぱく質含有率の高い子実は加工適正が劣り、対して小麦ではたんぱく質含有率が高い子実が求められます。

2月9日現在、幼穂形成期に達したほ場がある一方、食害や葉の黄化が目立つほ場が散見されます。品質が高い麦を収穫するために、生育状況や生育ステージを確認して追肥を適期に実施しましょう。

【株直し追肥】

◇大麦（小麦は行わない）

- ・追肥判断：播種時期が遅く生育量が少ない（年内の茎数が500本/m²以下）、葉の色が淡い、鳥類による食害が多い場合に実施します。
- ・追肥時期：融雪後
- ・施用量：窒素成分1kg/10a（硫安5kg/10a）

【幼穂形成期の追肥】

- ・麦類は幼穂長が2mmを超える頃から茎立ちし、幼穂や節間の伸長が急激に進むため、この頃の窒素栄養状態の悪化は有効茎歩合の低下を招きます。

⇒穂数を確保するため、生育ステージを確認し、確実に追肥を行いましょう。

- ・追肥時期：幼穂長2～3mmの時期
- ・施用量：◇大麦 窒素成分2.0～2.5kg/10a（硫安10～12kg/10a）
◇小麦 " 2.5kg/10a（硫安12kg/10a）

※幼穂形成期追肥は、追肥量が多すぎると倒伏の発生を助長します。株直し追肥を行った場合は、追肥量を削減してください。

【減数分裂期・穂揃期の追肥】

- ・減数分裂期追肥は1穂粒数を増やし、穂揃期追肥は千粒重や子実たんぱく質含有率を高めめます。そのため小麦では、品質を確保するための追肥として、減数分裂期と穂揃期の両方で追肥することが原則となっています。また、大麦では穂揃期に追肥すると品質が低下するため、追肥は減数分裂期までとします。
- ・追肥時期：下表参照
- ・施用量：下表参照

表 麦類の追肥量の目安 (kg/10a)

種別	品種	起生期（株直し）		幼穂形成期	減数分裂期	穂揃期
		起生期の葉の黄化状況	越冬後 茎葉が再び生長を始める時期	幼穂長が2～3mm	幼穂長が3～5cm 止め葉の葉耳間長が±0mm 出穂10～15日前	出穂した茎が80%
大麦	シュンライ	少ない	1	2～2.5	2～2.5	—
	ミノリムギ	目立つ	2			
	ホワイトファイバー					
小麦	シラネコムギ			2.5	2.5～5	2.5
	あおばの恋	—	—			
	夏黄金					5

(4)雑草防除

- ・今後、気温の上昇とともに雑草の発生が目立ってきます。雑草の発生状況に応じて適宜除草剤（茎葉処理剤）の散布を検討しましょう。



雑草防除の際の注意点

- ・幼穂形成期及び茎立期（節間伸長期前）を過ぎると使用できる除草剤が少なくなるので、生育を確認して適期に使用しましょう。
- ・散布後、薬剤が乾かないうちに雨が降ると薬剤が流れ落ちて効果が劣るため、天候に注意して作業しましょう。
- ・薬剤の雑草が限られているため、優先雑草を把握し目的に合ったものを使用しましょう。

表 麦類の使用可能な除草剤（令和6年2月1日現在）

薬 剤	作 物	適用雑草	10aあたり使用量 (散布液量)	使用時期	使用方法	備 考
ハーモニーDF	小麦	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	5~10g (50~100L)	は種後~節間伸長期前	雑草茎葉散布 又は全面散布	スズメノテッポウには、雑草5葉期までに散布。
		一年生広葉雑草	3~10g (50~100L)	節間伸長期開始期~穂ばらみ期 ただし収穫45日前まで		
	大麦	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	5~10g (50~100L)	は種後~節間伸長期前		
アクチノールB乳剤	麦類	一年生広葉雑草	100~200ml (70~200L)	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	雑草茎葉散布 または全面散布	広葉雑草については、発生揃~6葉期（ヤエムグラは4葉期）までに散布。
MCPソーダ塩	麦類 (秋播)	一年生及び多年生 広葉雑草	200~300g (70~100L)	幼穂形成期 ただし収穫45日前まで	雑草茎葉散布 又は全面散布	
エコパートフロアブル	小麦 (秋播)	一年生広葉雑草	50~100mL (100L)	小麦節間伸長期開始期まで (広葉雑草2~4葉期, ヤエムグラ2~6節期) ただし収穫45日前まで	雑草茎葉散布 又は全面散布	
	大麦	一年生広葉雑草		大麦節間伸長期開始期まで (広葉雑草2~4葉期) ただし収穫45日前まで		

※最新情報で農薬登録を確認のうえ使用してください。

※農薬使用の際に飛散防止対策を講じたいうえ使用してください。

〇1 か月予報（仙台管区气象台 2月8日発表）

向こう1か月(2月10日~3月9日)	平年と同様に晴れの日が多く、寒気の影響を受けにくい ため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に期間の 前半は気温がかなり高くなる見込みです。
1週目(2月10日~2月16日)	気温は平年に比べて高い確率が80%です。
2週目(2月17日~2月23日)	気温は平年に比べて高い確率が70%です。
3~4週目(2月24日~3月9日)	気温は平年並または高い確率ともに40%です。